

令和 2 年度 さいたま市立岸町小学校 学校関係者評価書

さいたま市立岸町小学校
学校関係者評価委員長 藤澤 太郎 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 8 名
- | | | | | | |
|-----------|-----|---------|-----|------|-----|
| ・地域住民代表 | 2 名 | ・公民館長 | 1 名 | | |
| ・青少年育成会代表 | 1 名 | ・関係中学校長 | 1 名 | | |
| ・民生児童委員 | 1 名 | ・関係幼稚園 | 1 名 | ・保護者 | 1 名 |
- (2) 実施回数 2 回 (内 1 回は紙面開催)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- 全体の評価の傾向・数値については、大変よいとことがわかる。特に児童、保護者の肯定的評価が高く、安心した。
- 「よいときはほめ、いけないときはしかってくれる。」の問いに、児童・保護者・教員の三者共に肯定的評価が 9 割を超えている。先生方は子どもの人格を尊重し、善悪の指導のよさを感じる。その指導が子ども、保護者にも浸透している。子どもたちも精神的に安定して、楽しく学校生活を送っていることが感じられる。
- 「友達と仲良く生活している。」への肯定的評価が三者共に特に高い数値であることから、交友関係がよく、楽しい学校生活が送られていることがわかる。
- あいさつについては、下校時の見守りをした際に、大多数の児童がきちんとあいさつを返してくれた。今後も丁寧な指導を期待する。同時に、小学校のみならず、社会全体の課題として取り組むべきと考える。
- 児童・保護者と教員の評価の乖離が見られる部分がある。教員が厳しく自己評価をするのは分かるが、学年差を考慮したり基準を明確にしたりするとよい。
- いじめについて、発覚後の素早い対応ができています。保護者と学校とが、事実を究明する姿勢ができています。具体的な見守り体制を強化するなど、事案を長引かせない対応もできています。今後も、情報の共有が重要である。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 今年度から選択肢を変えたため、昨年度との比較はできないが、昨年度に引き続き、概ね高評価を得られた。教育相談体制についても肯定的な評価をいただいたが、御指摘の通り、保護者と教員に評価の乖離がある。一層教育相談への意識を高める。
- 「学校は楽しいか。」の問いに児童の肯定的評価は 86.7%と、他の項目に比べて低い数値であった。コロナ禍でストレスがたまり、気持ちが不安定になっている実情が見える。意識を高め、子どもに寄り添い、サインを的確にとらえ更なる向上を目指す。
- 「元気に外遊びをする。」の問いに、肯定的評価が三者共に最も低い数値となった。感染防止のため校庭や遊具の使用を制限したり、体育の内容を変更したりしたことが要因と考える。昨年度以前から体力向上が本校の課題であったため、学校評価も踏まえ、来年度から「体力向上」を校内研修として取り組む。
- 「あいさつの励行」については、コミュニティ・スクールの準備と共に、白幡中学校区 3 校で連携・協力しながら、保護者、地域とも協力体制を取って組織的に取り組む。
- 教員の子どもへの指導のよさを評価していただいたが、一方で保護者の記述評価には、教員の暴言や不適切な指導を指摘するものもあった。私たちはこれを真摯に受け止め、学校に関わる全ての方から信頼される学校運営を目指す。

さいたま市立岸町小学校長 笠原 実 印